

令和元年度 都市経済常任委員会 行政視察報告書

1. 視 察 期 間

令和元年 10 月 7 日（月曜日）～10 月 9 日（水曜日）

2. 視察場所・項目

①山口県宇部市

・ときわ公園（次世代エネルギーパーク）について

②福岡県みやま市

・エネルギーの地産地消による地域の活性化について

③福岡県大野城市

・まちなかわくわくパビリオンについて

3. 参加委員

委 員 長	小 林 章 宏
委 員	美 勢 麻 里
委 員	岡 野 純 子
委 員	折 本 龍 則

副委員長	一 瀬 健 二
委 員	宝 新
委 員	今 泉 浩 一

都市経済常任委員会 行政視察参考資料

■山口県宇部市：ときわ公園(次世代エネルギーパーク)について

①市勢

1. 人 口	164,788 人 (男：78,633 人 女：86,155 人)	} R1.5.31 現在
2. 世帯数	79,399 世帯	
3. 面 積	286.65 km ²	
4. 予算額	664 億円 1,000 万円 (平成 31 年度一般会計予算)	
5. 議員数	28 人 (定数 28 人)	

②視察概要

ときわ公園は、元禄 11 年頃に灌漑用として常盤池が築堤され、昭和 33 年に常盤遊園地の開園、昭和 36 年に第 1 回宇部市野外彫刻展の開催、昭和 37 年～39 年に宮大路動物園をときわ公園へ移設するなど、戦災復興の象徴、市民の憩いの場として、公園整備が進められてきた。

現在は、県内初の国の登録記念物（名勝地関係）であり、日本の都市公園 100 選、さくら名所 100 選、「21 世紀に残したい日本の風景」総合公園としては第 1 位、美しい日本の歩きたくなるみち 500 選、ショウブ苑の「池坊花逍遥 100 選」（平成 27 年 1 月）、そして新日本歩く道紀行 100 選シリーズにおける「文化の道 100 選」（平成 27 年 10 月）に認定されるとともに、次世代エネルギーを活用する取組が経済産業省から「ときわ公園次世代エネルギーパーク」計画として認定された。また、ときわ動物園のリニューアルなど、総合レクリエーション及びアミューズメントパークとしての魅力も増え、癒し・憩いの場、また県内屈指の観光施設として多くの方々に愛されている。



●次世代エネルギーパークとは

次世代エネルギーパークは、小学生から高齢者まで国民各層が、再生可能エネルギーを中心に日本のエネルギー問題への理解の増進を深めることを通じて、エネルギー政策の推進に寄与することを期待するものである。このような趣旨に合致しているとともに、以下の6つの要件に該当する施設を対象として、次世代エネルギーパークの計画の認定・公表が行われる。

1. 実施運営主体が確定していること。実施運営主体は地方自治体又は第3セクター等であり、自治体が主体的に取り組んでいると判断されること(資金面については、運営主体以外の支援が過半を占めていてもよい)。また、必要に応じ、地元の再生可能エネルギー設備を有する民間企業等が実施運営に参加する場合は、その者が決定されていること。
2. 実施運営主体において、建設費、維持費、来場者予測等を考慮した現実的な収支計画が立てられていること。また、収支計画の中で、費用負担を行う者が決定されていること。
3. 地域特色を明確にしたコンセプトが存在するなど、地域の特色を生かした創意工夫がみられること。
4. 再生可能エネルギー設備で発生した電気・熱が、パーク内や周辺地区で使用され、もしくは系統に連系される計画であり、利用する発電量・熱量規模及び利用先が明示されていること。
5. 原則として複数の種類の再生可能エネルギー設備が含まれていること。また複数の地域にまたがる場合には、全体像がわかるような中心的な施設が存在するとともに、一体的に見学できるような工夫がなされ、また、個々の施設において、見学者に対し安全を確保しつつ必要な情報が提供できる体制がなされていること。
6. 近隣に再生可能エネルギー設備や関連施設がある場合には、可能な範囲で、当該パークに関連する施設として位置づけられていること。

●ときわ公園における次世代エネルギーパーク化計画

「環境・芸術・スポーツ・福祉」の融合した先進的なモデル公園化を目指し、下記の3つの方針に基づく新たな機能を導入し、既存の施設や機能と有機的に連携しながら、官民共同・連携で取り組みを推進する。

方針1：新たな地域防災拠点づくり

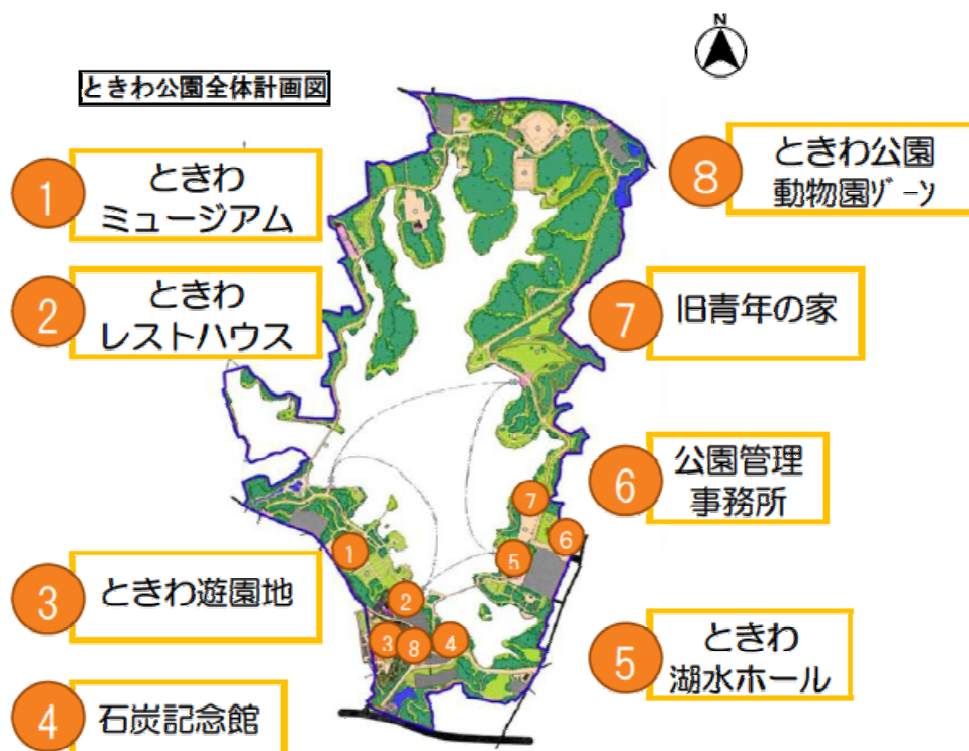
既存施設を活かしながら、災害等の非常時に備えた防災拠点としての施設整備を図る。

方針2：再生可能エネルギーの利活用

エネルギーの地産地消を推進するため、再生可能エネルギー生み出す設備等を既存施設に導入・整備し、常時利用によるCO₂の削減を図るとともに、非常時の電力確保による防災性の向上を図る。

方針3：防災・再生可能エネルギーの学習・体験の場づくり

既存の学習機能等と有機的な連携を図りながら、防災・再生可能エネルギーの学習・体験の場とする。



導入施設	整備内容
①ときわミュージアム	太陽光発電、木質チップボイラー、LED照明、再生可能エネルギー説明板、発電量等表示システム等
②ときわレストハウス	太陽光発電、LED照明、再生可能エネルギー説明板、発電量等表示システム等
③ときわ遊園地	太陽光発電、地中熱冷暖房システム、LED照明、再生可能エネルギー説明板、発電量等表示システム等
④石炭記念館	太陽光発電、LED照明、再生可能エネルギー説明板、発電量等表示システム等
⑤ときわ湖水ホール	太陽光発電、蓄電池、風力発電、LED照明、再生可能エネルギー説明板、発電量等表示システム等、電気自動車等…EV、充電ステーションを整備し、園内外移動用のモビリティとして平常時・非常時ともに利用する。また、非常時には補助電源としても活用する。
⑥公園管理事務所	太陽光発電、LED照明、再生可能エネルギー説明板、発電量等表示システム等
⑦旧青年の家	太陽光発電、LED照明、再生可能エネルギー説明板、発電量等表示システム等
⑧ときわ公園動物園ゾーン	太陽光発電、LED照明、再生可能エネルギー説明板、発電量等表示システム等 電気自動車等…EV、充電ステーションを整備し、園内移動用のモビリティとして利用する。 ソーラー型浄水装置…平常時は豊富な池の水や井戸水を浄化して清掃等に活用し、非常時はろ過して飲料水、生活用水として利用する。

◆主な質疑応答

Q. ときわ公園課が観光・シティプロモーション推進部に属している経緯について。

A. 従来は市内全体の公園を所管する公園整備局において、ときわ公園の維持管理等が行われていた。インバウンド対策を含めて観光集客に力を入れていく方針から、2年前に観光・シティプロモーション推進部が新設され、UBE ビエンナーレ推進課などとともに、ときわ公園も当該部の中に位置づけられることになった。

Q. 電気自動車の補助電源を実際に災害で使用したことがあるのか。

A. 幸いなことに必要となるような災害に見舞われていないため、使用実績はない。

Q. ときわ公園の管理はどのように行われているのか。

A. 公園全体の管理(植物館及び彫刻の管理含む)・運営・イベント・PR 等 ⇒ 市
動物園の管理 ⇒ 委託 遊園地の管理 ⇒ 民間業者への借地
公園内の除草・清掃等 ⇒ 指定管理及び委託

Q. 全体の維持管理費はどれぐらいかかっているのか。

A. 4億円前後となっている。



■福岡県みやま市 : エネルギーの地産地消による地域の活性化について

①市勢

1. 人口	37,385 人 (男 : 17,413 人 女 : 19,972 人)	} R1.6.30 現在
2. 世帯数	14,400 世帯	
3. 面積	105.21 km ²	
4. 予算額	182 億円 9,500 万円 (平成 31 年度一般会計予算)	
5. 議員数	15 人 (定数 16 人)	

②視察概要

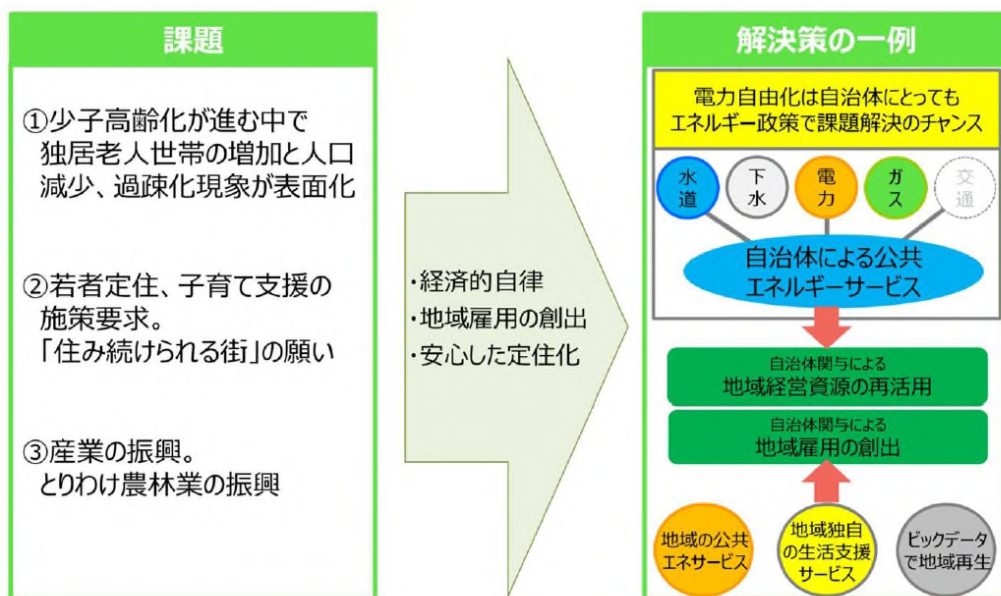
地域資源を活かしたまちづくりと分散型エネルギーインフラの確保による災害に強いまちづくりのため、自治体による家庭等の低圧電力売買（電力小売・太陽光余剰電力買取）を主目的とした日本初の事業会社『みやまスマートエネルギー株式会社』を設立した。市内で産出される再生可能エネルギーによる電力を地域で消費し、電力消費に係るキャッシュフローを地域内に取り込める仕組みを構築してエネルギーの地産地消の取り組みを始めている。現在、市役所本庁舎をはじめとする公的施設や工場などの市内民間企業に電力を供給しており、一般家庭にも電力供給している。生活インフラである電力を安価に安定的に提供するだけでなく、高齢者見守りや子育て世代支援といった生活支援サービスを付加価値として提供することを目指している。

これまで、毎年約47億円の一般家庭の電気代が市外に流出していたものを市内の電力会社に切替えることで雇用と利益が生まれ、地域経済の浮揚につながり、その利益を最大限市民サービスに還元することができる。地産地消の再生可能エネルギーインフラを整え、環境を保全しながら地域コミュニティを活性化させる総合的な取り組みを推進することで、だれもが住みやすい、住みたくなる「エネルギーとしあわせの見えるまち」の実現を目指している。

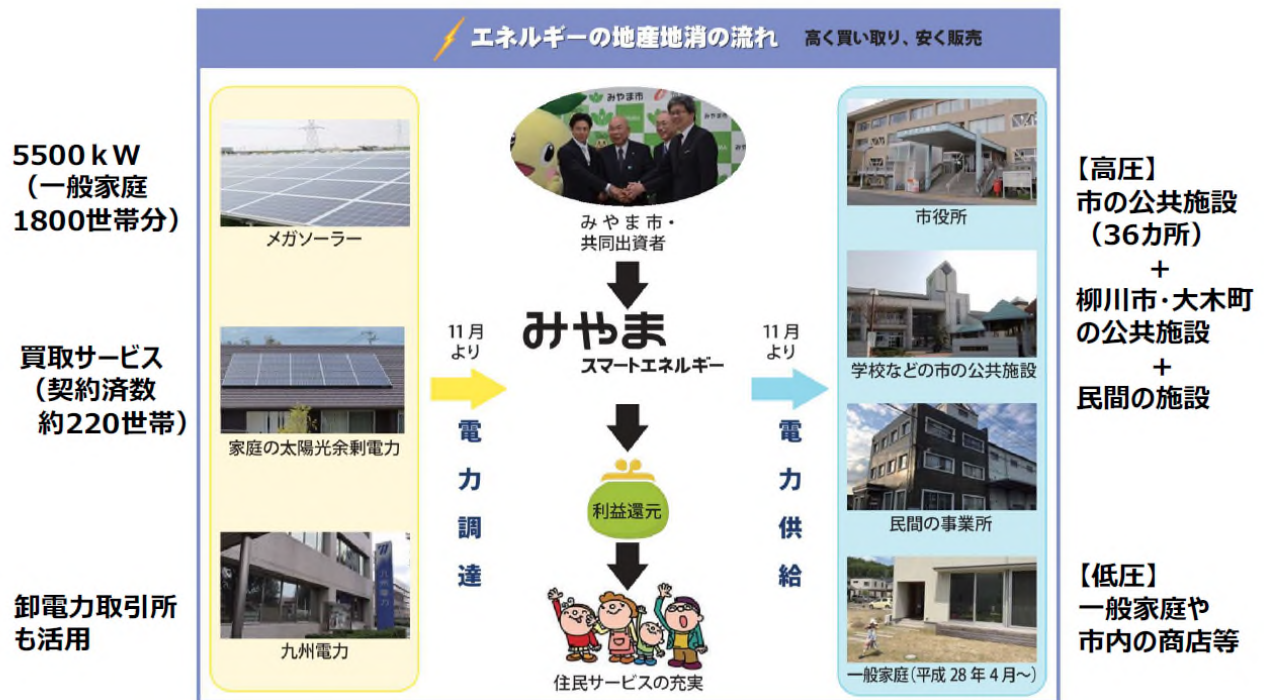


地域新電力会社設立の趣旨

- 自治体が抱える課題を「公共エネルギーサービス供給」により解決
- 新しく生まれるサービスを根付かせ、みやま市に新しいビジネスを生み雇用が生まれ、経済を活性化させる



2015年11月より電力を供給開始



新電力事業

みやまスマートエネルギー(株)による「地産地消エネルギー」の地域活用

■メガソーラー



◆主な質疑応答

Q. 全世帯に対する電力供給率と電力調達率はどれぐらいか。

A. 電気を買っていただいている世帯が 10%弱で、売っていただいている世帯は約 220 世帯となっている。

Q. 個人宅にソーラーパネルを設置するとどのくらいコストがかかり、初期コストを回収できるのか。

A. 8kW で 150 万円ぐらいの設置費用がかかり、現状で採算を取るのには難しい。

Q. メガソーラーの台風の被害はどうか。

A. 平坦な場所に低く設置しているので、台風の被害はなかった。

Q. HEMS による電力の見える化等に使用するタブレットは契約時に配付しているのか。

A. 契約時ということではなく、希望があれば配付している。

Q. 民間企業との合同出資による株式会社に対する市民の目線はどうか。

A. 市が出資している第 3 セクターであるため、透明性・公平性の確保がより求められている。現在、議会で調査委員会が立ち上がり、みやまスマートエネルギーの業務委託先であるみやまパワーホールディングスとの利益相反取引の調査が始まっている。他自治体に対する支援などの観点も含め、会社の役割・経営体制の見直しが必要だと考えている。



■福岡県大野城市：まちなかわくわくパビリオンについて

①市勢

1. 人 口	100,856 人（男：48,620 人 女：52,236 人）	} R1.6.30 現在
2. 世帯数	44,061 世帯	
3. 面 積	26.89 km ²	
4. 予算額	355 億 8,900 万円（平成 31 年度一般会計予算）	
5. 議員数	20 人（定数 20 人）	

②視察概要

●まちなかわくわくパビリオンとは

大野城の魅力と活力をより多くの人に知ってもらい、もっともっと光り輝くまちにしたいという思いから、市内の事業所や個人等が考えたプログラムをリレー方式で開催していくイベントである。まちなかわくわくパビリオンは、イベントプログラム数の多さが特徴であり、2018 年の第 7 回目の開催時には約 3 ヶ月の期間中に、44 種類のプログラムが開催された。

●事業の経緯

大野城市と商工会の共働により、平成 23 年度から取り組んでいる観光商品開発プロジェクト事業において、大野城跡・水城跡を初め、市内に点在するさまざまな既存の地域資源を活用したイベントなどを実施してきた。この観光商品開発プロジェクト事業の一環として実施がスタートした「まちなかわくわくパビリオン」については、大野城市の特色ある地域資源に、知恵と工夫を加えたアイデアを加えることによって、また、それぞれが点となっている地域資源そのものを結びつけることによって、地域資源の価値を高め、市内外から人々が訪れる観光資源として活用していこうとする着地型観光商品の考え方をもとに取り組んできたものである。平成 28 年度からは一般社団法人大野城市にぎわいづくり協議会によって事業が実施されており、地域循環型経済の施策として地域の活性化につながっている。

●事業の実績

第 6 回に当たる平成 29 年度は、平成 29 年 10 月から約 3 カ月間で 35 プログラムが開催され、約 1 万 4,000 人を超える参加者がいた。平成 24 年度に開催された第 1 回では、21 プログラム、3,382 人の参加があったことから、市民の認知度は年々上向いている。

また、平成 29 年度の参加者に対するアンケート結果については、プログラムに対して 92%の方が「大満足」「満足」と回答しており、また、89%の方から「まちなかわくわくパビリオン」を続けたほうがよいとの回答が出されている。

2018年第7回目のプログラム一覧

No.	タイトル	ページ	要予約	入場無料	開催日	No.	タイトル	ページ	要予約	入場無料	開催日
1	第11回大野城まどかぴあ 版画ビエンナーレ 入賞・入選作品展覧会	3		○	9/23日 ▼ 10/7日	23	(うちなーむん) 大野城市で沖縄の映画を見る会	6	○		10/28日
2	まちかど美術館	3		○	10/1日 ▼ 10/15日	24	ハンドメイド雑貨イベント FunTime☆HalloweenParty	6		○	10/29日
3	キットパス リトルアーティスト講座	3	○		10/1日 11/4日 12/3日	25	下大利駅前 ハロウィンパーティー	6		○	10/31日
4	キットパス アートインストラクター 養成講座	3	○		10/1日 11/4日 12/3日	26	自分だけのオリジナル 手ぬぐいや風呂敷を 作ろう	6	○		11/5日
5	上大利monstera ビューティ&リラクゼーション イベント	3	○		10/1日 ▼ 12/15日	27	食欲の秋!オリジナル 明太子づくりに挑戦	6	○		11/10日
6	大野城の宝 フォトコンテスト	3		○	10/1日 ▼ 10/15日	28	紙ひこうき教室	6	○		11/10日
7	「中央コミ Bright Up salon」 ～色と香りと美しい姿勢で魅力UP～	3	○		10/5日 ▼ 11/27日	29	西日本豪雨災害チャリティコンサート 大野城市「琉球の風」	6			11/11日
8	白木フェスティバル	3		○	10/7日	30	梅頭窯跡公開ウォーク	7	○	○	11/11日
9	「ジョークエスト」ダウンロードして 大野城のお宝を再発見! 「わくわくウォーク大野城!」	4	○	○	10/7日 10/21日 11/17日 12/9日	31	アロマの香水づくり ～幸運の香り～	7	○		11/15日
10	歩くための靴を 自分で作る ワークショップ	4	○		10/7・21日 11/11・25日 12/9日	32	まどかぴあ 市民大学「おとなの楽校」 3時間目	7			11/17日
11	大野城いこいの森 中央公園市民感謝DAY	4		○	10/7日	33	体験!チョークアート	7	○		11/17日
12	親子黒板作り教室	4	○		10/13日	34	怪盗ロイチェ ～奪われた贈り物～	7	○		11/18日
13	悠生園秋祭り	4		○	10/14日	35	ベリカン薬局健康フェア	7	○	○	11/18日
14	本当に初心者のための デジタル一眼カメラ講座	4	○		10/14日 10/15日 11/11日 12/10日	36	ピアノにアート♪ ライブペイントと わくわくミニコンサート	7		○	11/24日 ▼ 11/27日
15	メガネケースなどの 革小物づくりの ワークショップ	4	○		10/14・28日 11/18日 12/2・16日	37	香る・飾ってコラージュボード (フレグランスソープ)	8	○		11/24日
16	秋の夜長を楽しもう! 蕎麦打ち体験とお月見会	5	○		10/19日 10/26日	38	ママ雑貨イベント connect コネクト	8		○	11/27日
17	竹林整備	5	○	○	10/20日	39	葉牡丹リースの寄せ植え ワークショップ	8	○		11/27日 11/29日 12/2日
18	「ふるさと館」で 「大野ジョー」くんと踊っちゃお!	5		○	10/20日 11/10日 12/15日	40	健康になろうよ 全員集合! お陰様で21周年!!	8		○	11/27日
19	雪峰祭(秋)	5		○	10/20日 10/21日	41	クリスマスリース作りと 材料集め	8	○	○	11/29日 11/30日
20	♡よもぎ蒸し体験♡	5	○		10/21日 11/18日	42	障がい者と地域の みんなとの交流の場 「であいば」	8		○	11/7日
21	秋の自然観察と山登り	5	○	○	10/24日	43	商工会青年部餅つき大会	8		○	12/16日
22	わくわくカフェ	5		○	10/24日 11/28日 12/19日	44	ハンドメイド雑貨イベント FunTime☆XmasGift	8		○	12/18日

◆主な質疑応答

Q. 個別にイベントをPRするのではなく、プログラムをまとめてPRすることの強みをどのように考えているか。

A. 大野城市が共催し、商工会や西日本鉄道株式会社が後援している信用あるブランドとして、まちなかわくわくパビリオンに安心して参画いただけることがメリットであると考えている。

Q. ちらしは全世帯に配付しているか。また、ポスティングのタイミングはいつか。

A. ちらしは商工会で事業を実施している時から全世帯に配付している。最初は広報紙に折り込んで配付していたが、それでは広報紙を開かない人はそのまま捨ててしまうことがあるため、今年度からは折り込みをやめて単独で配付している。また、ポスティングのタイミングは開催の1カ月前としている。

Q. プログラムを募集する際に業種を制限しているのか。

A. 業種の制限はなく、プログラムの内容で変更をお願いすることがある。事業色が濃く、通常業務で行っているだけのものではなく、それにプラスして体験ができるなどで参加者が楽しめるようなものをお願いしている。

Q. 地域力活用新事業∞全国展開プロジェクトに応募することとなった経緯は。

A. 将来の人口減少対策の1つとして応募することになった。



※ 本報告書は、宇部市、みやま市、大野城市よりご提供いただいた資料及び各市で管理されているホームページ等の情報を基に作成しています。